

【協議事項4】

計画方針と基本計画(たたき台)

第Ⅲ章 計画方針

1. 基本理念と基本的な方向性

本計画では、上位計画である「セントラルパーク構想」で定められた基本理念と基本的方向性を踏襲することとします。

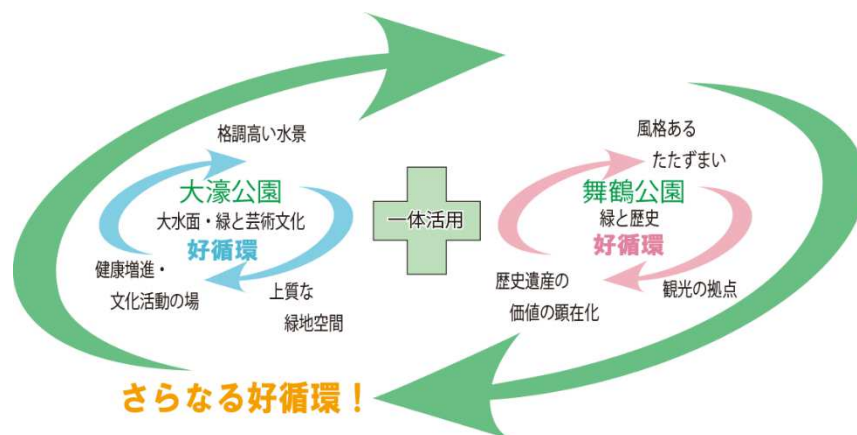
(1)基本理念

福岡を代表する個性を有する2つの公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し

時をわたり、人をつなごう。
～未来へつながる福岡のシンボルへ～

を基本理念として掲げます。

大濠公園・舞鶴公園が持つそれぞれの個性を磨き上げるとともに、二つの公園の一体活用を図ることさらなる好循環を生み出し、都市の活性化につなげていきます。



(2)基本的な方向性

本計画に求められている課題を解決し、福岡の個性と文化を物語る場所となるよう基本的な方向性を次のように設定します。

基本的な方向性

- 大濠公園・舞鶴公園一帯の**空間をつなぎ**、一体感のある緑地空間づくり
- 福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の**時をたどる**空間づくり
- 観光集客機能の向上による**にぎわいをつくり**、都市の活性化につなげる拠点づくり
- 「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、**みんなで育てる**公園づくり

2. 整備方針

4つの基本的な方向性のもとに今後の整備を行うにあたって、方向性毎の課題を解決していくための整備方針の考え方について整理します。

基本的な方向性

基本的な方向性毎の主な課題

大濠公園・舞鶴公園一帯の**空間をつなぎ**、一体感のある緑地空間づくり

空間をつなぐための課題

- ・両公園をつなぐ動線の確保
- ・公園利用を全体に広げる動線の確保
- ・明るさや見通しなどをはじめとした園路環境の向上
- ・非史跡施設の移転跡地の活用
- ・防災機能の向上
- ・生物多様性を育み、それを学ぶための環境の確保

福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の**時をたどる**空間づくり

時をたどるための課題

- ・鴻臚館跡や福岡城跡などをはじめとする福岡の歴史の重層性の表現
- ・公園と史跡の両立
- ・史跡と調和した樹木類の整理や移植、管理

観光集客機能の向上による**にぎわいをつくり**、都市の活性化につなげる拠点づくり

にぎわいをつくるための課題

- ・アクセス環境と入口部のわかりやすさの向上
- ・便益施設やガイダンス施設などをはじめとした諸施設の充実
- ・芸術文化施設等の連携
- ・公園や史跡などに関するわかりやすい情報提供
- ・イベントや利用プログラムの充実

「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、**みんなで育てる**公園づくり

みんなで育てるための課題

- ・市民や企業などが関わりやすい仕組みや施設の充実
- ・福岡県と福岡市間での連携強化
- ・周辺地域との連携強化

課題を解決していくための整備方針の考え方

空間をつなぐための整備方針の考え方

大濠公園と舞鶴公園の空間的かつ有機的なつながりをもった一体感を高め、回遊性や視認性の確保による魅力づくりや防災機能向上と環境への配慮に努めながら、憩いやレクリエーション活動の場としての機能の向上につなげます。

時をたどるための整備方針の考え方

古代の遺跡「鴻臚館跡」と近世の遺跡「福岡城跡」、近代の記念物「大濠公園」とが、それぞれの真正性と全体的な重層性を確保された上で活用され、風格ある環境の中で歴史に学び、将来の福岡を考えるうえで重要な役割を担えるよう、サイトミュージアムとしての個性的な魅力づくりを行います。

にぎわいをつくるための整備方針の考え方

福岡を巡る観光のシンボルエリアにふさわしい風格と、サイトミュージアムとしての演出を強化しながら、豊かな水と緑とともにある芸術文化施設等の連携や充実化を促し、観光・集客資源としての機能向上等を通じて都市の活性化につなげます。

みんなで育てるための整備方針の考え方

大濠公園・舞鶴公園から発する風格と、ワクワクするような魅力ある公園の雰囲気が周辺地域においても感じられ、県民・市民がさらに愛着や誇りに感じ、管理や運営に対する協力意識が広まることなどによって、福岡の活性化に貢献します。

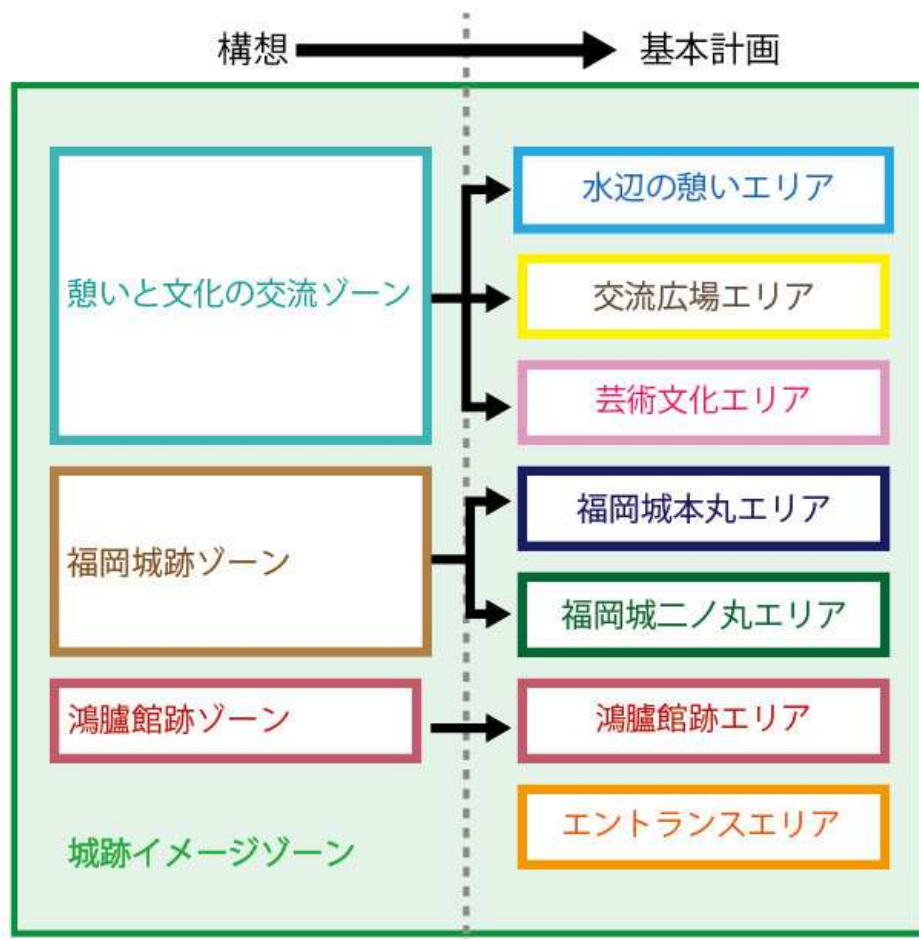
第Ⅳ章 基本計画

1. 土地利用計画

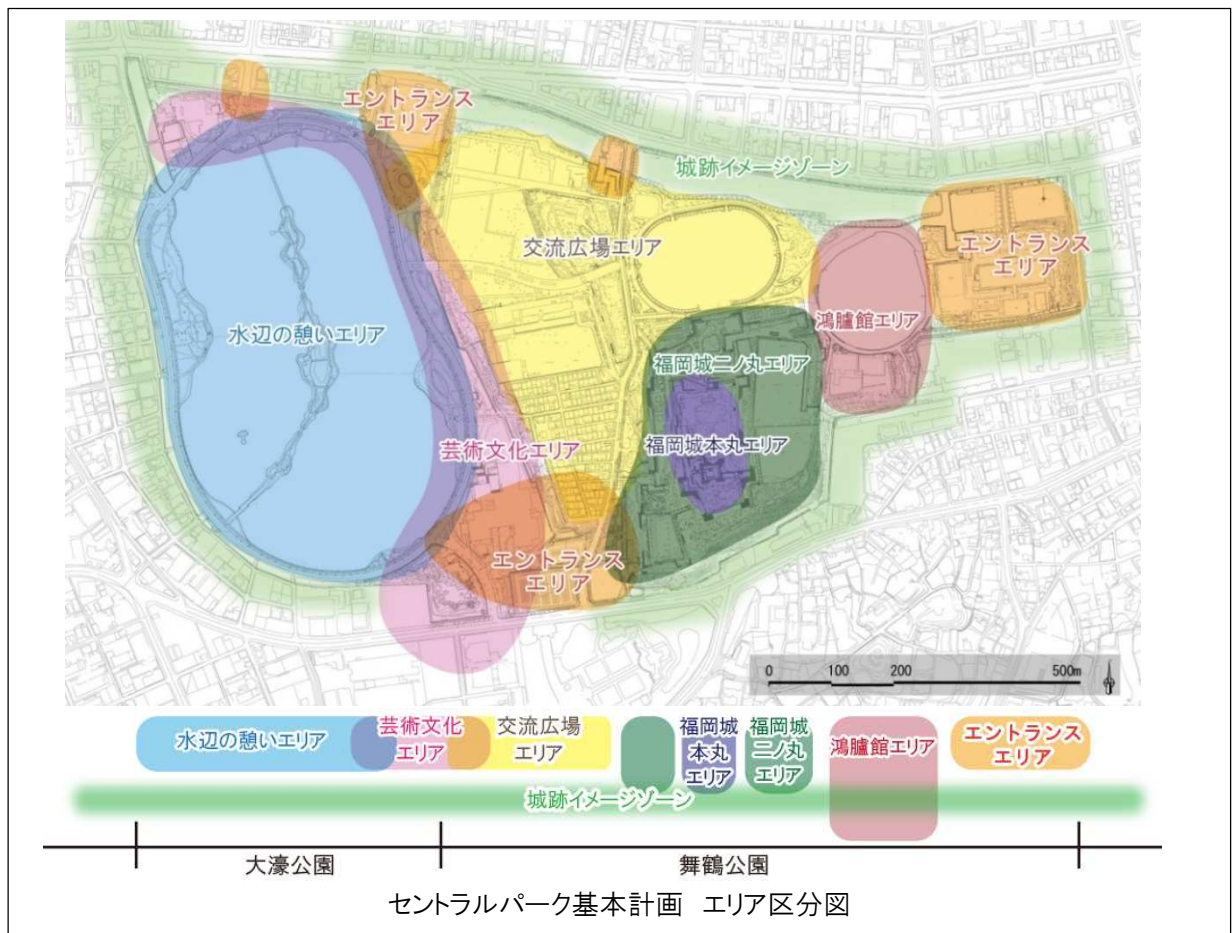
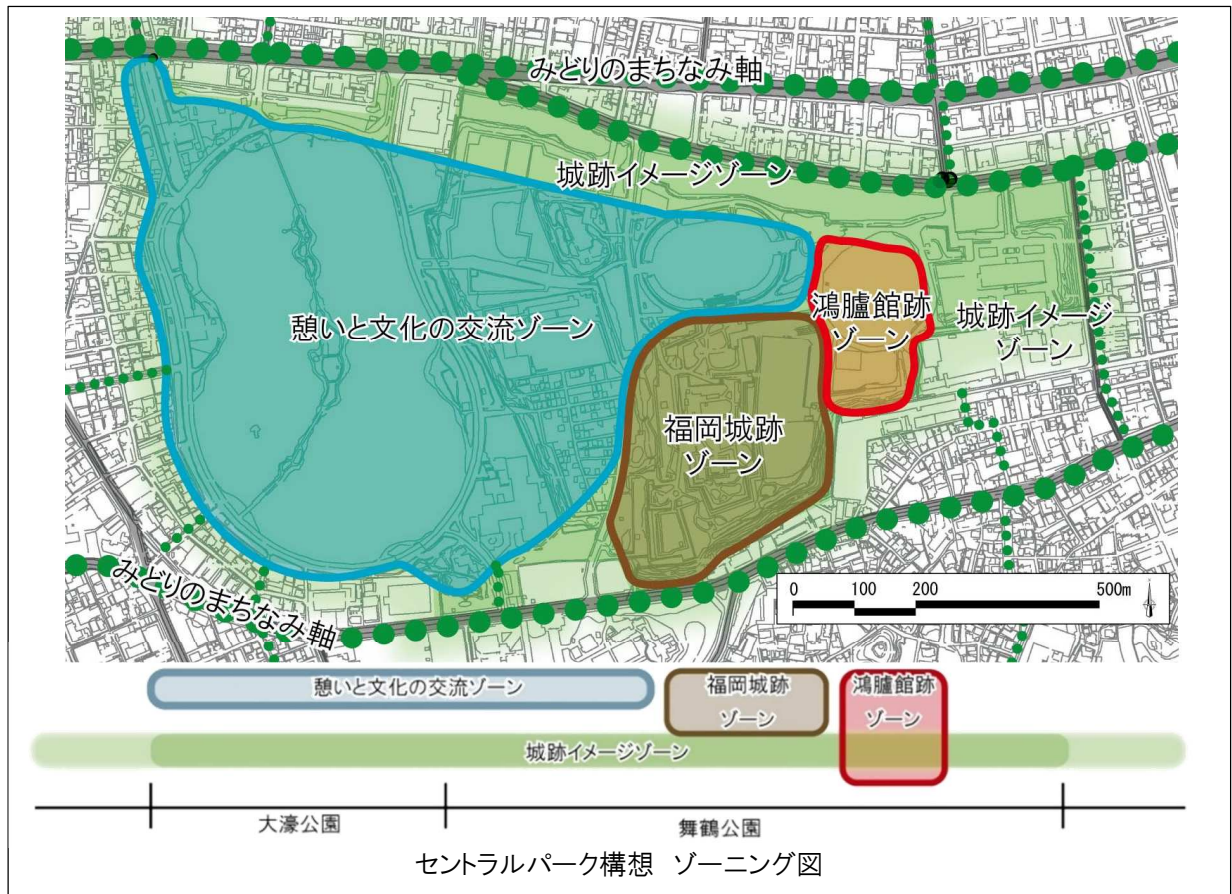
「セントラルパーク構想」で示されたゾーニング図を踏まえ、対象地の特性に応じてエリアを区分し、主要な園路や主要な施設との関係性について整理します。

(1) エリア区分

場所ごとの特性に応じてセントラルパーク構想で示されたゾーニングを細分化し、エリアを区分します。



ゾーニング図からエリア区分図への展開



各エリアの考え方は以下の通りです。

水辺の憩いエリア

大濠公園の水面とその周回園路を中心とした範囲を「水辺の憩いエリア」とします。

都心での貴重な水辺を感じながら歩行者やジョギング利用者、自転車利用者、ペットの散歩など、様々な利用者がより快適に利用できるよう通行レーンの明確化やマナーアップを図ります。また、水景を眺めながら休憩できる施設や子ども達が安全に安心して遊ぶことができる場所や水辺に親しみやすい場所を設けます。

交流広場エリア

舞鶴中学校や城内住宅、平和台陸上競技場などの大規模な非史跡施設の移転予定地を中心とした範囲を「交流広場エリア」とします。全てのエリアに接し、それらをつなぐ中心的なエリアとして移転跡地などを中心に、来園者が憩い集え、イベントや様々な活動の舞台になる広場を設置します。各エリアの接点にあたる場所は優先的に見通しをよくし、大濠公園と舞鶴公園の物理的・視覚的な一体感を創出します。

芸術文化エリア

能楽堂や福岡市立美術館、日本庭園などの芸術文化施設とそれらをつなぐ空間を「芸術文化エリア」とします。芸術文化施設の連携の強化を図り相乗効果を高め、福岡の芸術文化の核となるエリアとして、芸術文化施設内の芸術の雰囲気が公園全体へと広がり、屋外でも芸術活動を行いたくなるような環境づくりを行います。

福岡城本丸エリア

福岡城本丸の範囲を「福岡城本丸エリア」とします。「国史跡福岡城跡整備基本計画」の整備方針と整合を図り、福岡城跡の最大の見所として、歴史的建造物などの保存を一義的に行います。来園者が福岡城跡の歴史を感じ、学ぶことができるよう積極的な復元整備や石垣の保存・修景による城跡の雰囲気の演出を図ります。継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向けた財源確保の仕組みを構築します。

福岡城二ノ丸エリア

福岡城二ノ丸の範囲を「福岡城二ノ丸エリア」とします。「国史跡福岡城跡整備基本計画」の整備方針と整合を図り、歴史的建造物や庭園などの復元整備、石垣の保存・修景に努め、城郭としての景観保全を重視した整備を図ります。二ノ丸への入口部周辺は公園の園路と適切に連続させると共に、エントランスとしての魅力向上を図り、来園者が行ってみたいと思えるような雰囲気づくりを行います。

鴻臚館跡エリア

鴻臚館跡の史跡指定範囲を「鴻臚館跡エリア」とします。「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」（策定中）の整備方針と整合を図り、発掘調査、資料の収集に努めると共に、古代の歴史文化の学習の場、迎賓の場として鴻臚館の時代に思いをはせることができる復元整備を行います。施設の復元までの期間は発掘調査の公開やイベントの場として利用するなどの有効活用を図ります。継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向けた財源確保の仕組みを構築します。

エントランスエリア

明治通りと国体道路に接する大濠公園と舞鶴公園の主要な入口とその周辺に加え、天神側からの玄関口となる福岡高等裁判所周辺を「エントランスエリア」とします。外部からも公園の雰囲気が感じられ、公園の入り口として魅力的でわかりやすい空間となるよう整備を行うとともに、来園者への案内機能や公園の魅力を伝えるガイダンス機能や公園管理者の拠点機能などを備えたパークセンターの導入を図ります。

また、都心部に近い貴重な緑地空間として、災害時の避難場所や避難路など、さらなる防災機能の強化を図り、安心・安全に利用できる空間づくりを行います。

城跡イメージゾーン

福岡城跡は堀の部分も含めると両公園を合わせた範囲以上に広がっていたことから、両公園全体及び周辺を「城跡イメージゾーン」とします。

周辺からのアプローチやエントランスとしての機能を高めるとともに、都市景観上も重要である沿道や周辺から城跡のイメージを感じられる場所については、門や堀等の復元整備や土塁上の樹木の保全・密度管理など「お城」が感じられる空間づくりを行います。また、鴻臚館跡と重なる範囲においては史跡の重層性を表現した空間づくりを行います。

(2)主要な園路

各主要な園路の考え方は以下の通りです。

水辺の路

水景を楽しみながら池沿いを周回することができると共に、市立美術館、能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設を巡ることができる路として魅力の向上を図ります。

緑の路

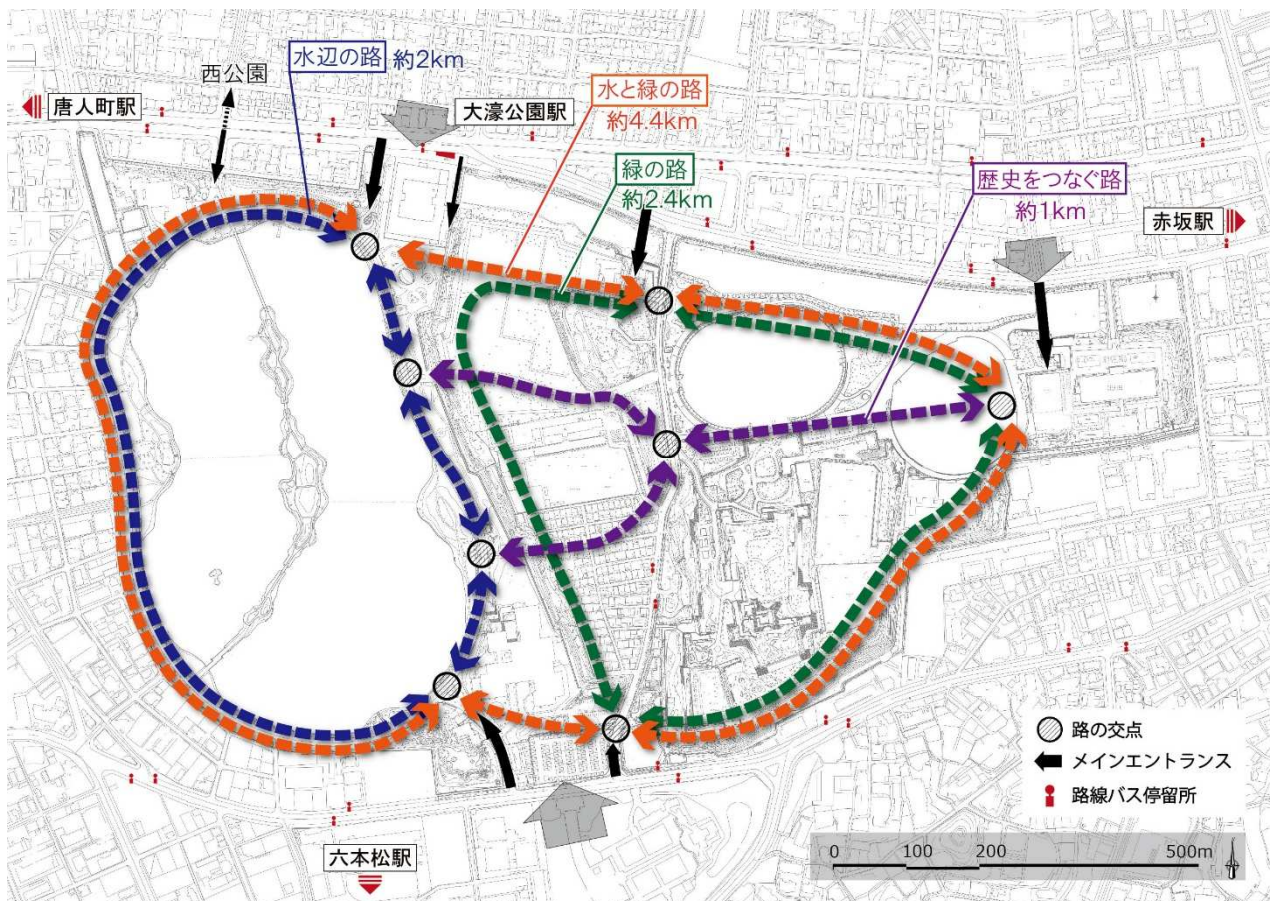
福岡城跡の土塁上に分布する豊かな緑のボリュームを感じながら散策やジョギングなどによって舞鶴公園内を周回できる路を形成します。

水と緑の路

大濠公園と舞鶴公園を大きくつなぎ、大濠公園の水面や舞鶴公園の豊かな緑などの両公園の沢山の魅力にふれることができる路を形成します。

歴史をつなぐ路

古代の遺跡「鴻臚館跡」、近世の遺跡「福岡城跡」、近代の記念物「大濠公園」をつなぎ、来園者が福岡の歴史の重層性を感じることができる路を形成します。



主要園路計画図

(3)主要な施設

各主要な施設の考え方は以下の通りです。

市立美術館(既設・改修)

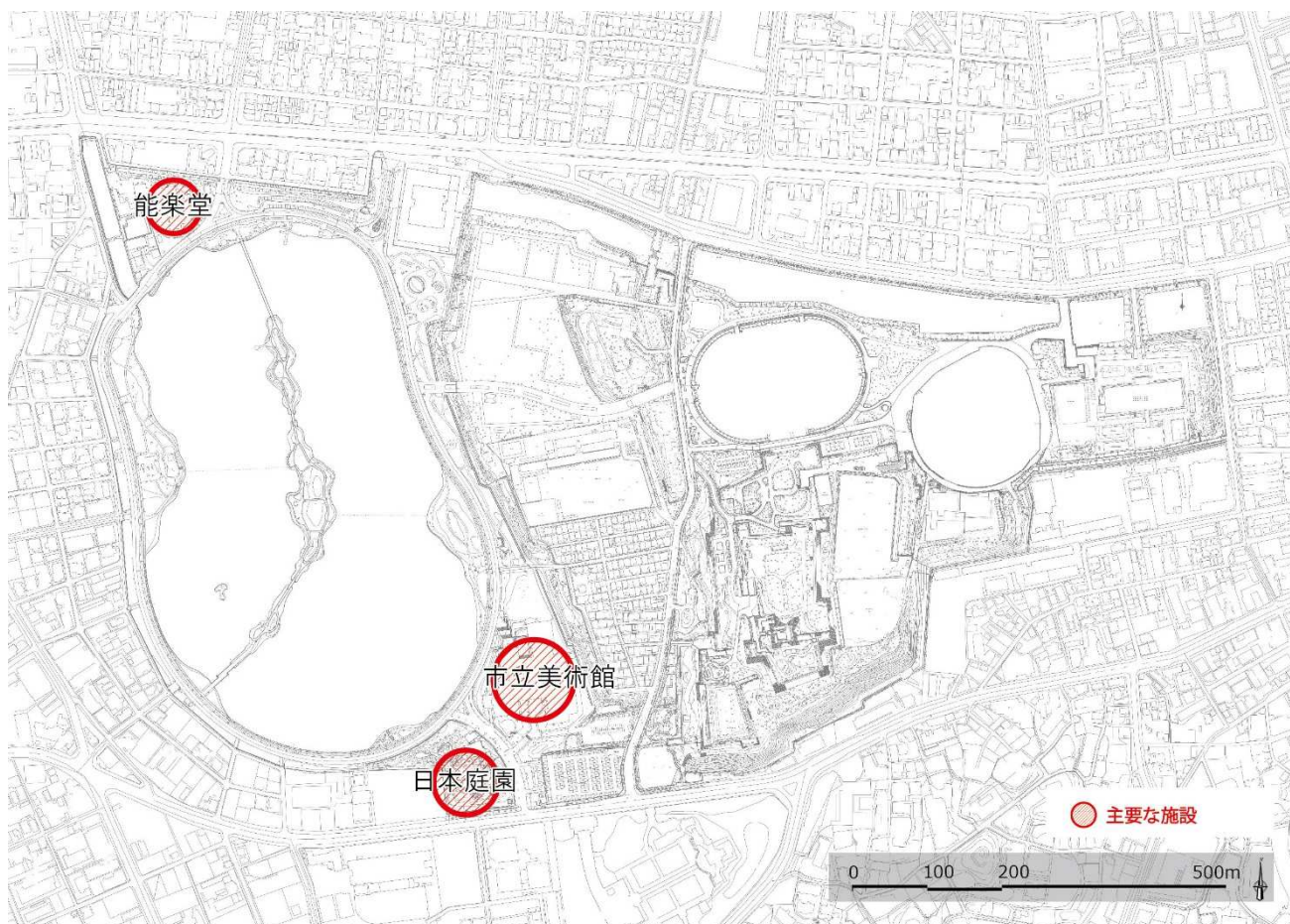
芸術文化施設の連携を強化すると共に、美術館内での芸術文化の雰囲気が公園内の屋外空間に広がり、公園の雰囲気と美術館の雰囲気が有機的につながることで、多くの県民・市民が、気軽に芸術文化を楽しむことができる環境づくりを進めます。

能楽堂(既設)

能楽堂内で行われている能をはじめとする日本の伝統文化に関わる活動が、イベントなどを通じて公園内に広がりを見せ、来園者が気軽に日本の伝統文化の魅力を感じることができる環境づくりを進めます。

日本庭園(既設)

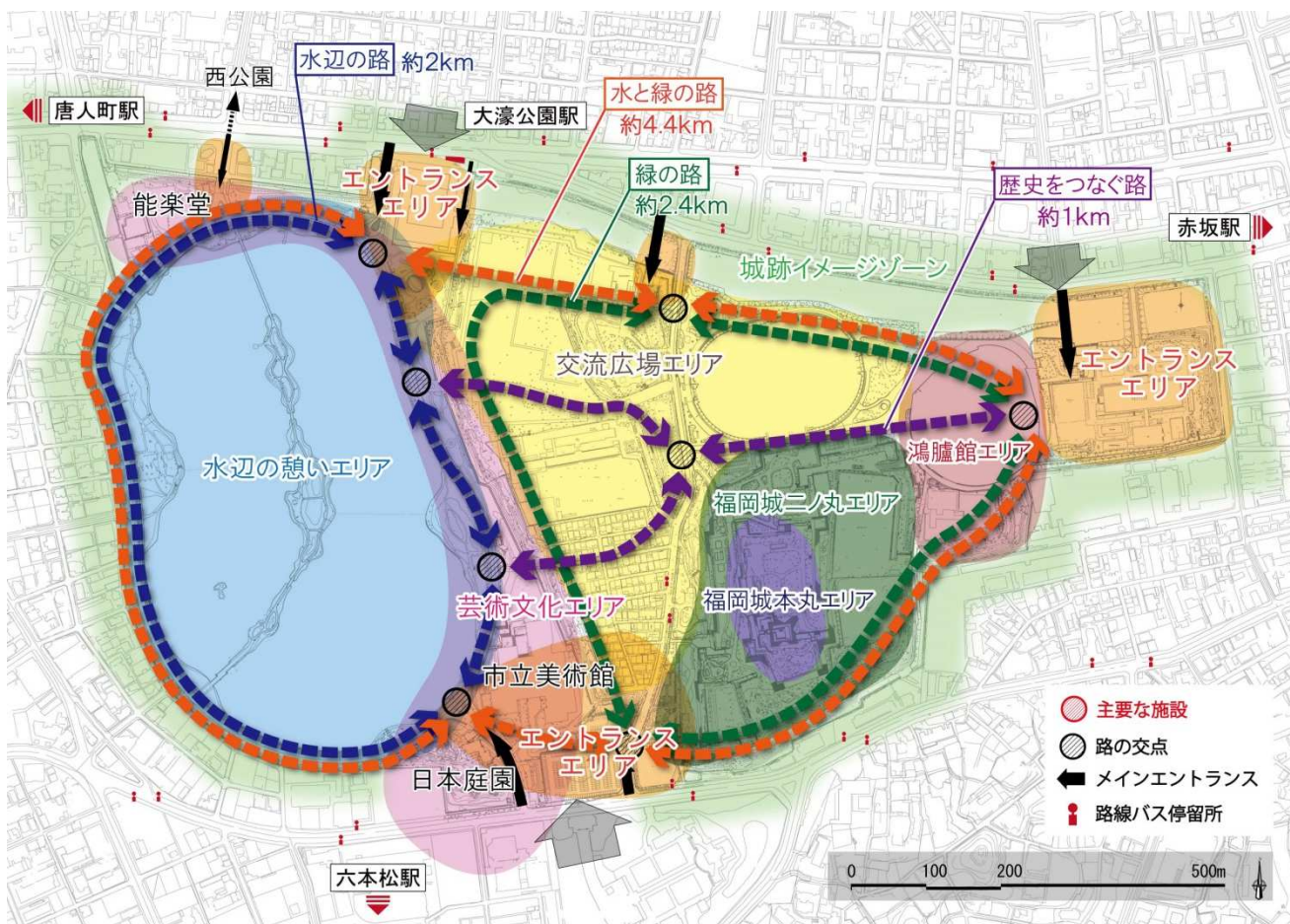
芸術文化施設間の連携を強化すると共に、来園者にとって入りやすい、親しみやすい環境づくりを進めます。



主要施設の計画位置図

(4)土地利用計画

エリア区分、主要な園路、主要な施設を重ね合わせた図を土地利用計画図とし、基本計画の骨格として位置付けます。



土地利用計画図

2. 動線計画

土地利用計画で示された4つの路（水辺の路、緑の路、水と緑の路、歴史をつなぐ路）をもとに、緑や水辺などの自然、歴史や芸術・文化など大濠公園・舞鶴公園の持つ様々な魅力をつなぎ、一体的な活用を促すための動線を計画します。

(1) 基本的な考え方

動線計画における基本的な考え方を以下のとおりに設定します。

基本的な考え方

- 大濠公園の周回園路でなされている利用が舞鶴公園を含めた全体に広がるよう大濠公園と舞鶴公園をつなぐ動線を設けます。
- 災害時の利用にも効果的なエントランスと動線を確保します。
- 来園者がスムーズに舞鶴公園線を横断できるよう、横断歩道や立体的な横断施設を検討します。
- 非史跡施設の移転などを見据えた長期的な視点を踏まえ、うえで計画地内の各エリアを効果的に接続する動線を設定します。
- 周辺地域からのアクセスや公園の見え方に配慮したエントランス空間の確保を図ります。

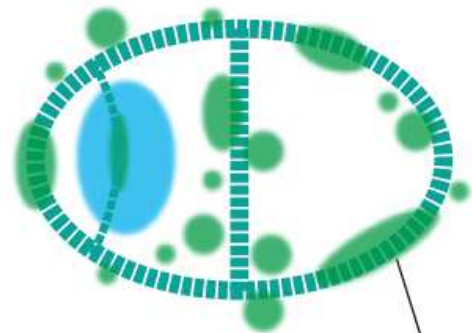
(2)利用者動線

ここでは動線の基本的な考え方を設定したうえで、自然観察コースや歴史探訪コース、芸術文化コース、ジョギングコースなど、利用者の目的に応じた回遊コースの設定を行い、将来的な動線のあり方を整理します。

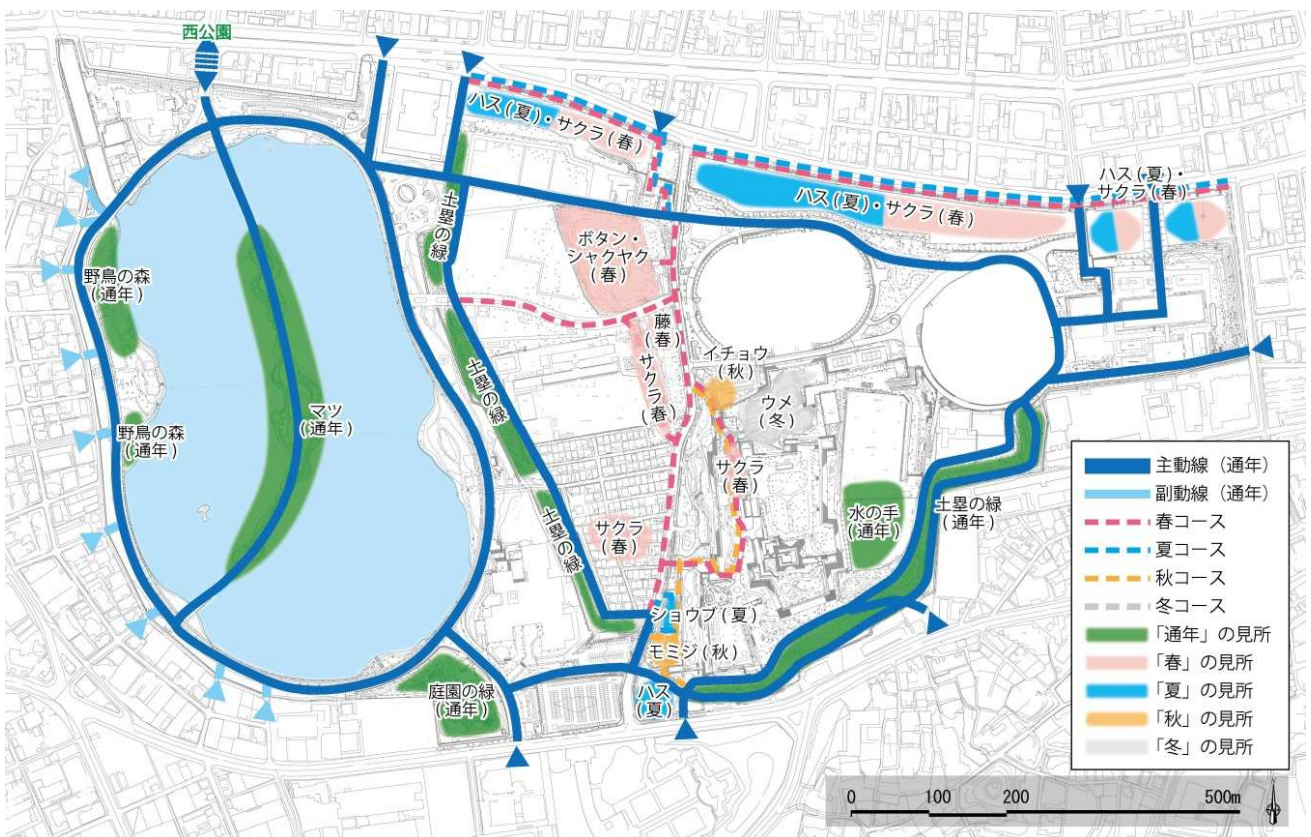
①回遊コースの設定

■自然観察コース

土塁上の緑や、野鳥の森、大濠の水辺など通年自然観察を楽しむことができる場所をつなぐコースを主動線として設定します。また、花々や紅葉などの季節ごとに楽しむことができる場所については、主動線から派生する形で季節ごとのコース設定を行います。



両公園内の自然の観察スポット
自然観察コース概念図



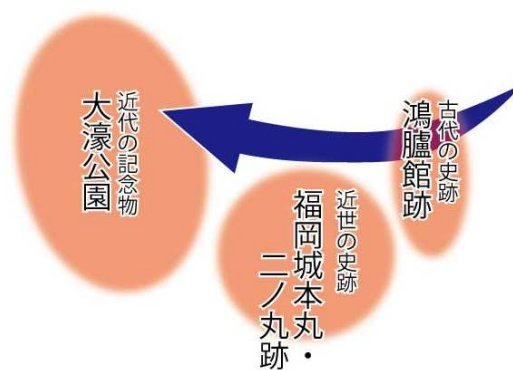
自然観察コース



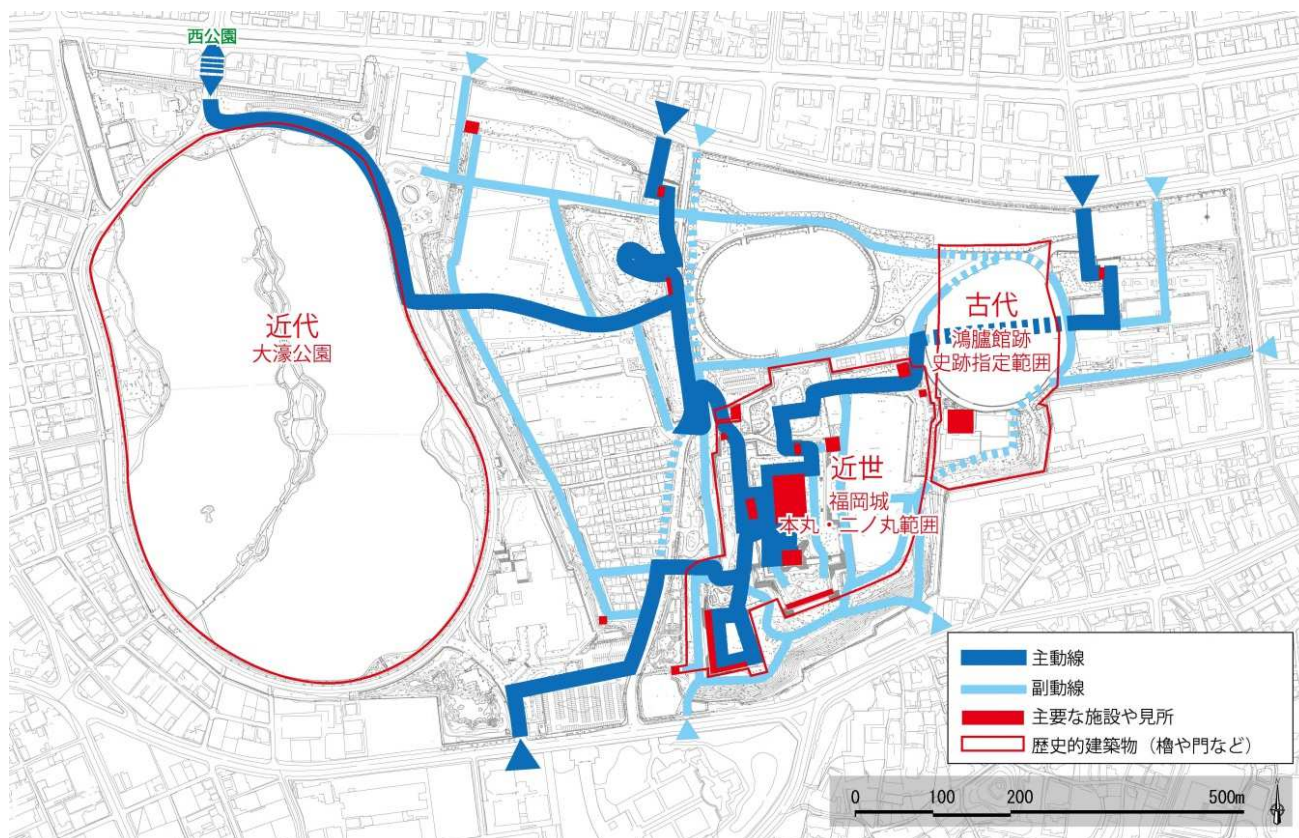
■歴史探訪コース

上之橋御門周辺から鴻臚館跡、福岡城跡、大濠公園へとつながる動線を主動線として設定します。

まずはガイダンス施設で福岡の歴史を学び、そこから実際に鴻臚館跡や福岡城本丸・二ノ丸を歩くことで、古代から現代につながる福岡の歴史を体感できるコースとします。



歴史探訪コース概念図



歴史探訪コース



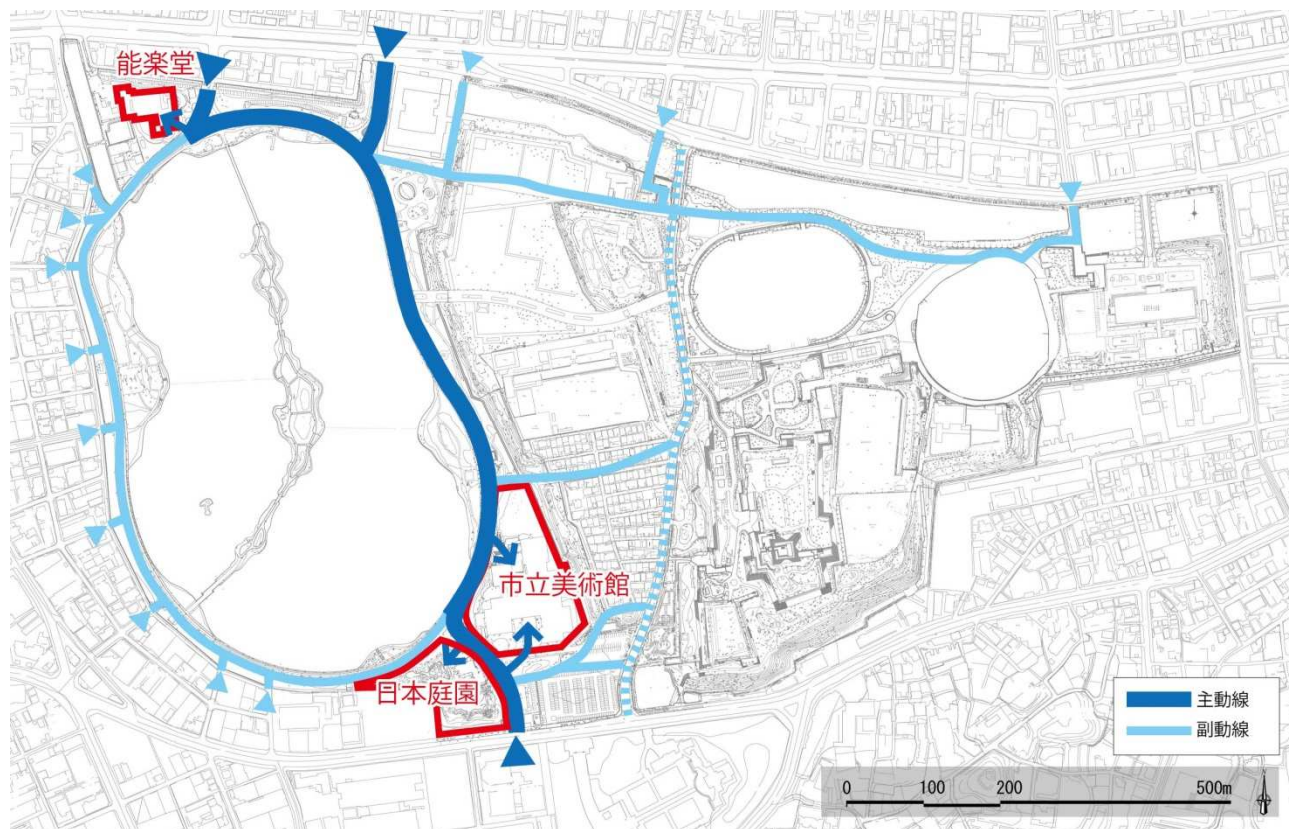
■芸術文化コース

能楽堂、市立美術館、日本庭園をつなぐ動線を芸術文化コースの主動線とします。

地下鉄大濠公園駅をはじめとする周辺の駅やバス停を利用して訪れる人々がアクセスしやすいコース設定とします。



芸術文化コース概念図

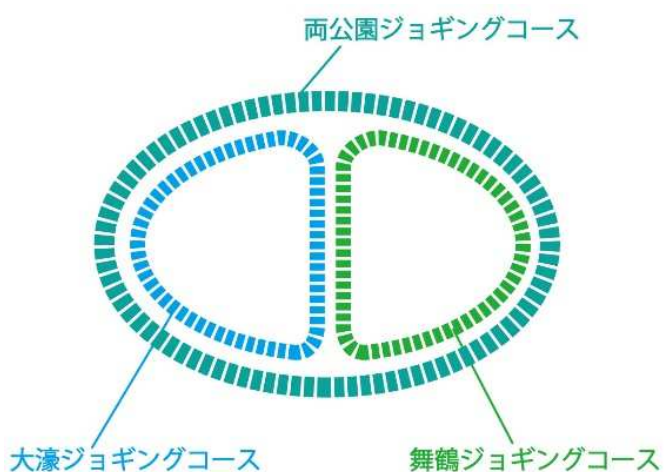


芸術文化コース

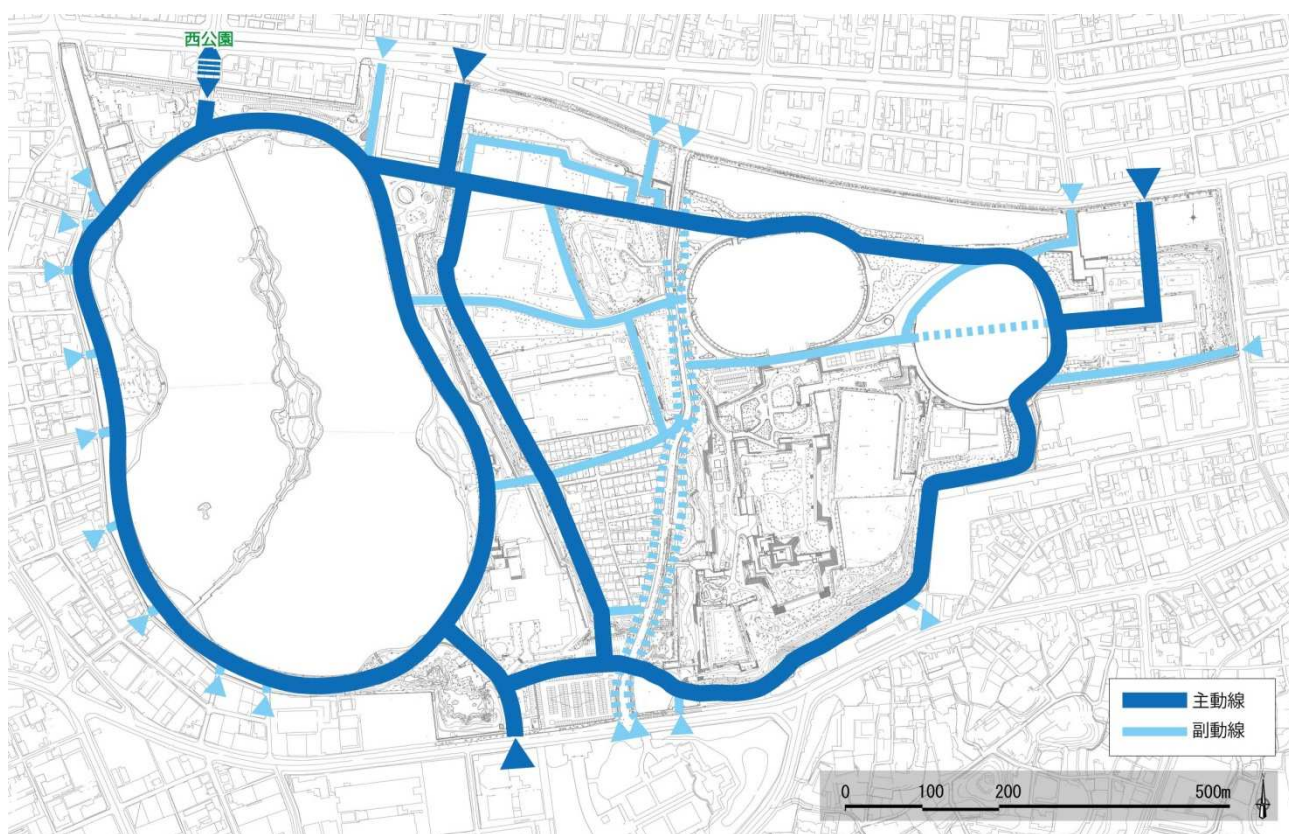


■ジョギングコース

現在大濠公園の周回園路で行われているジョギングやランニングなどが、舞鶴公園内でも出来るようになり、水辺の景色を楽しみながら走れる大濠ジョギングコース、歴史的な景色や緑の景色を楽しみながら走れる舞鶴ジョギングコース、その両方を楽しむことができる両公園ジョギングコースという3つのコースを実現することができるよう主動線を設定します。



ジョギングコース概念図

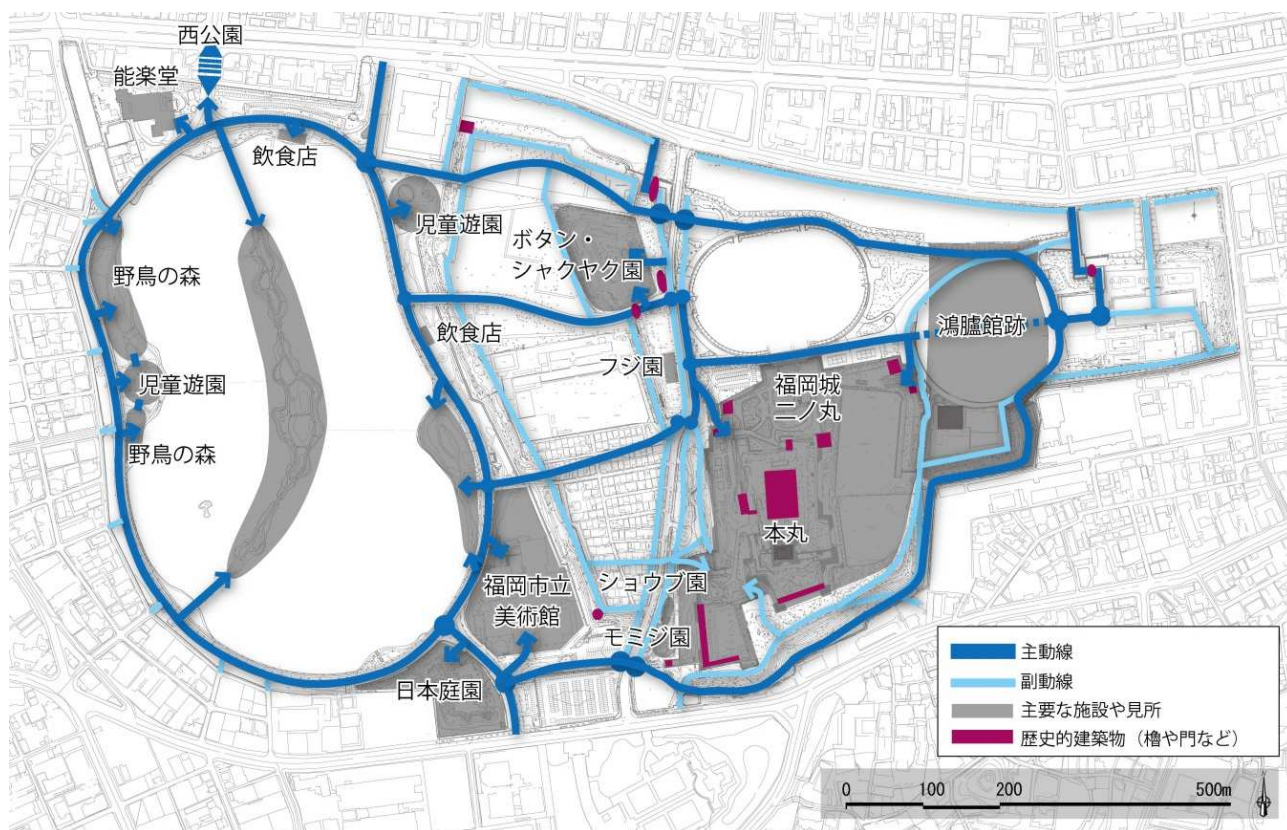


ジョギングコース



②動線計画図

「水辺の路」、「緑の路」、「水と緑の路」、「歴史をつなぐ路」という4つの路をもとに、自然観察コースや歴史探訪コース、芸術文化コース、ジョギングコースなどの利用者の目的に応じた大濠公園・舞鶴公園の様々な魅力を感じる回遊コースを設定することができるよう、以下の通り動線を設定します。



動線計画図